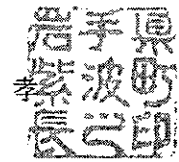


紫土第312号

平成20年10月15日

国土交通省道路局長 殿

岩手県紫波町長 藤 原



今後の道路行政についての意見・提案の提出について

このことについて、別紙のとおり提出いたします。

①道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など

岩手県紫波町

国では、道路特定財源等について、「道路特定財源等に関する基本方針」を平成20年5月13日に閣議決定したところです。その中で「必要と判断される道路は着実に整備する」としております。地方における住民生活の道路に対する依存度は、都市部とは明らかに異なり非常に高いと考えております。したがって必要とされる道路は、地域の状況により異なるものであり、必要な道路の選択にあたっては、十分な配慮をお願いいたします。

次に、地方道路整備臨時交付金制度についてです。「基本方針」において特定財源の一般財源化が明確になったところですが、これに伴い制度の縮小が懸念されます。今後も、この制度の維持あるいは拡充に特段の配慮をお願いするものです。

②-1 道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など

岩手県紫波町

○現状

町道、都市計画道路は、国道、県道に連結し、通勤・通学・買い物などに利用され、町民の日常生活及び緊急時には必要不可欠な生活基盤である。本町の認定路線の延長は940キロメートルを超え、その管理には相当の維持費を要しております。地方においては、少子高齢化の進展は著しく、それに伴う経費は増大する一方であり、町道等のインフラ整備、管理に係る経費については抑制せざるを得ない状況である。

また、都市計画決定されている道路は、長期間にわたり整備できない状況にあり、その区域内で制限を受けている町民等からは不満の声が聞こえてきている。

○課題

既存の施設は、経年とともに老朽し維持費が増大していく。特に、道路の場合は、破損の放置は交通事故の原因にもなりかねないことから、その財源の確保が必要である。都市計画道路の見直し等についての手続きには、適正な理由と相当の期間等を要することから、なかなか進まない状況にある。

②- 2 地域の目指すべき将来像

岩手県紫波町

「百年先を見据えた自然環境・生活環境の保全と持続、急激に進展する少子高齢化社会への対応、交流人口拡大による産業や地域の活性化が、紫波町の文化・風土にさらに光をあててくれるとともに、ここに住む人たちが町を愛し、この地域を利用してくださる人々とともに、まちづくりを一步一步進めていくことが、21世紀の地方の時代には肝要なことである」とのまちづくりの理念のもとに、町民、企業、行政の協働により、21世紀のまちづくりを進める上で「ひと、こころ、いのちの和で育む、ゆたかな未来」を目標に、次に掲げる将来像を目指しております。

1 共生のまち・紫波

- 豊かで恵まれた自然環境を後生に引き継ぐとともに、循環を基本に環境に負荷の少ない生活ができる仕組みやライフスタイルをさらに深め、自然と共生する町づくりを目指します。
- 町民のだれもが安心して暮らせる生活基盤の整備と、保健・医療・福祉を連携させ、町民すべてが社会参画可能なノーマライゼーションを基本とした社会づくりを目指します。

2 協働のまち・紫波

- 町民・企業・行政がパートナーシップを発揮し、役割を分担しながら産業基盤の整備や産業間の連携等による産業振興により、多様なビジネスチャンスの創出と、魅力ある就労の場の創出を目指し活力あるまちづくりを推進します。

3 地元学のまち・紫波

- 年代に応じた多様な学習活動を行うための条件整備に努め、地域の歴史や文化などの個性に光をあてた「紫波地元学」を進めます。
- 地域の教育力を再構築するとともに、IT教育を進め、グローバルな視野を持った人材の育成により、誇りと愛着のある郷土づくりを目指します。

4 交流のまち・紫波

- 地域の特性・魅力をさらに具体化し、親しみのある、開かれた交流のまちづくりを目指します。
- 国際交流などさまざまな交流を促進し、紫波町の持つ多様な情報を幅広く発信し、交流人口の拡大を促し、人、物、情報が行き交うまちづくりを目指します。

今後の道路行政についての意見・提案

様式 ④

③ 道路施策の重点事項(代表事例、期待する効果や評価等)

岩手県紫波町

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
・交通安全対策	歩道の整備(自転車歩行者道路)	特に、学校周辺を重点的に整備することで児童、生徒の通学時の安全が確保できる。	